

## 令和5年度事業計画

## 1 管理運営事業

※括弧内は増減率

## (1) 当初予算

① 歳出 238,132 千円 前年度当初予算比 328,432 千円減少 (▲57.97%)

主なもの

## 【博物館事業】

・特別展「大集合！富山の鳥たち」の開催	5369 千円
・企画展「近代プラネタリウム100周年 -プラネタリウムを楽しもう-」（仮題）の開催	427 千円
・企画展「立山山麓の森へ行こう」の開催	790 千円
・富山市山岳域自然調査（追加調査、2ヶ年度計画の1年目）	212 千円
・プラネタリウム特別番組の実施と投影番組の制作	219 千円
・展示更新計画の策定	5,000 千円

## 【設備・施設等の更新・修繕】

・構内電話設備の更新	440 千円
・空調設備等の修繕	940 千円
・3階外壁ひび割れ補修	800 千円
・電動シャッター開閉装置の更新	610 千円
・科学博物館情報システムの更新	1,456 千円

② 歳入 16,916 千円 前年度当初予算比 326,319 千円減少 (▲95.07%)

【内訳】 観覧料等 15,555 千円

## (2) 孫とお出かけ支援事業

令和5年度から入善町が加わり、県内14市町村が対象となった。

## 2 調査研究事業

富山の自然の特性を解明する、自然と人との関わりを考えるという目標のもと、各分野でテーマを設定して行う。

地学系と生物系が共同で行う富山市山岳域調査は、2年延長とし、その1年目を実施。

研究報告第47号は7月1日発行。

研究発表会は令和6年3月予定。科学セミナーは3回程度開催予定（関係者に公開）。

### 分野別テーマ

岩石	富山県内の火山岩類の研究
	鷲羽岳火山の完新世の噴火活動に関する研究（富山市高山帯域の重点調査）
地史・古生物	富山県内産化石の基礎調査
	考現古生物学的基礎調査
	北陸地域の新第三系層序に関する研究
	県内産中生代化石調査
	恐竜化石調査
植物	富山県の植物多様性調査
	高山域の植生復元に関する研究
	富山県の蘚苔類相調査
	水生蘚苔類の分布・生態に関する研究
昆虫	富山県の昆虫相調査
	甲虫目コガシラミズムシ科の分類学的研究
	北陸地域を主とした希少水生昆虫の生息調査
脊椎動物	富山県の魚類・両生類・は虫類・鳥類・ほ乳類相調査
	富山市域の小型哺乳類相調査
	有峰地域の小型哺乳類相調査
天文	実写映像や3Dモデルを用いたドームコンテンツの制作方法の研究
	高感度ビデオカメラによる流星観測に関する研究
	白萩隕鉄と流星刀に関する研究
物理	蜃気楼の観測調査
	科学工作に関する研究
	展示装置に関する研究



共通	富山市山岳地域自然調査
	海外博物館との交流
	博物館の展示と運営に関する調査
	研究報告第 47 号の発行

### 3 展示事業

展示を通して市民の自然と科学への関心と理解を深めていく。

	展示会名	期間
常設展示	エントランス展示 おもしろ実験ひろば とやま・時間のたび とやま・空間のたび ノーベル賞受賞者コーナー 宇宙へのたび	通年
特別展・企画展	企画展 ぐるぐる-自然界のかたち-	令和 5 年 3 月 4 日 ～5 月 21 日
	令和 4 年度富山県科学展覧会入賞作品展 -アイデア浮かぶ科学の広場-	令和 5 年 6 月 3 日 ～7 月 2 日
	特別展 大集合！富山の鳥たち ※関連イベントとして講演会を実施	令和 5 年 7 月 15 日 ～9 月 3 日
	第 44 回 SSP 展 自然を楽しむ科学の眼 2023-2024	令和 5 年 9 月 14 日 ～10 月 11 日
	第 82 回 富山県科学展覧会	令和 5 年 10 月 19 日 ～10 月 23 日
	企画展 近代プラネタリウム 100 周年 -The Planetarium Story-	令和 5 年 11 月 1 日 ～12 月 13 日
	第 31 回 私の身近な自然展	令和 5 年 12 月 23 日 ～令和 6 年 2 月 18 日
	企画展 立山山麓の森へ行こう (仮)	令和 6 年 3 月 2 日 ～5 月 19 日
ロビー展	流星刀 標本をつくってみよう 干支の動物 辰 (タツ) など	各 1～2 カ月

#### 4 資料収集事業

郷土を特徴づける標本、写真等の資料の収集を継続するとともに、資料データの公開を進める。

標本収集は、全分野で 5,000 点程度を想定。

標本データの公開においては、2,000 件のデータを作成し S-NET（全国科学博物館ネットワーク）／GBIF（地球規模生物多様性情報機構）に提供予定。

##### 分野別の収集内容

岩石	県内外の岩石・鉱物・砂資料収集
	収蔵資料の整理およびデジタルアーカイブ化
地史・古生物	県内及び近県の化石資料整理など
	恐竜化石のクリーニング・整理
	大山地域恐竜足跡露頭の保全
植物	富山県の植物多様性(維管束植物・コケ植物)解明に必要な資料・情報の収集整理
	標本交換による資料の充実
	標本データを加工して全国科学博物館ネットワーク S-NET 及び GBIF に提供
昆虫	富山県の昆虫に関する文献と標本の収集及び整理
	標本データを加工して全国科学博物館ネットワーク S-NET 及び GBIF に提供
脊椎動物	脊椎動物の標本(液浸・骨格・剥製)収集・整理
	脊椎動物に関する映像資料の収集
天文	星雲・星団・銀河・月・惑星・流星・星座・星・月の動きの撮影
物理	曇気楼、雲等の気象現象の写真撮影
	科学工作資料収集
共通	国内・国外博物館の資料収集(交換)
	富山県を中心として、県内外の資料の収集整理
	標本の燻蒸



## 5 普及教育事業

### (1) 事前に申し込みを必要とする行事

区分	行事名等	回数
とやまの自然探検	初夏の美女平など	6
科学教室	小さなコケ植物の観察会など	5
教職員向け	教員のための博物館の日	1
講演会	ライチョウの暮らす立山	1
星空観察会	定期観察会（毎週土）、特別観察会（中秋の名月など）	約 100
【連携】富山県情報産業協会	親子で挑戦！ロボットプログラミング教室	1
【連携】自動車技術会	小型エンジン分解組み立てなど	2
【連携】富山市民病院	人体を知ろう	1
【連携】富山地方気象台	気象台へ行こう 天気の実験と予報の仕事	1

### (2) 入館者対象の行事

区分	行事名等	日間
定例的な実演もの	サイエンス・ライブ（毎週土日休日）	約 100
	夏休みクイズラリー（平日）	23
特別企画 ロボット実演	高校生が作ったロボットとあそぼう 協力：不二越工業高校	2
	ムラタセイサク君・ムラタセイコちゃん 協力：株式会社村田製作所	4
特別企画 科学イベント	サイエンスライブまつり	1
自由研究向け行事	自由研究のすすめかた相談会	11
	標本の名前を調べる会 &自由研究のまとめ方相談会	1
科学技術映像祭 入選作品上映	「コズミックフロント 流星群 星降る夜の謎 「雅なクモ ジョロウグモの一生」など 8 題	51
【連携】富山大学実験講座	ふれあい実験 with 富大生（仮題）	2
ボランティアによるもの	読み聞かせ	約 8

- (3) レファレンス（科学の質問への回答）  
館の重要な市民サービスと位置づけており、今後も丁寧な対応を行っていく。
- (4) 移動ミニ博物館の貸出（貸出用展示 45 セット）
- (5) 市内小学校へのオンライン授業参加  
学芸員によるオンラインでの授業参加を申込み制で実施する。  
自然や科学の質問回答や、立山登山の事前学習として立山の自然の話等の予定。
- (6) 出版物発行  
普及雑誌「とやまと自然」 4回 県内小・中学校、高校等  
リーフレット「とやまサイエンストピックス」 6回 市内小・中学校等  
リーフレット「星空だより」 6回 市内小・中学校等  
資料「学校で科学博物館を利用しよう」 館の案内資料と共に来館校に事前送付
- (7) 学校向けウェブコンテンツ  
立山登山の参考資料 室堂平の高山植物などを紹介するページ  
展示学習ワークシート（62種類）
- (8) その他  
SDGs-ESD 富山シンポジウムへの参加  
市役所出前講座

## 6 プラネタリウム投影事業

### (1) 一般投影の映像番組

区分	番組名	期間
一般向け	水の惑星 -星の旅シリーズ-	令和5年3月16日～ 令和6年3月15日
	ハナビリウム ～花火って、なんであるの？～	令和5年3月16日～ 令和6年3月15日
	【新】 まだ見ぬ宇宙へ	令和5年10月1日～ 令和6年9月30日
子ども向け	ダイナソー・サバイバル 恐竜たちの大進化	令和5年3月16日～ 令和6年3月15日
	【新】 ゲゲゲの鬼太郎～河童のテラフォーミング～	令和6年3月1日～

※一般投影の前半の星空解説は、今年度も時季に合わせたものを自作する。



(2) 幼児向け・学習投影

区分	番組名	期間
幼児向け投影	たなばた	令和5年6月1日～7月14日
学習投影(小4)	星の動き・月の動き	令和5年10月17日～12月15日

※学習投影については、10月まではバスの手配ができず、徒歩以外の学校は11月以降に実施。

(3) 特別番組

区分	テーマ等	回数
学芸員と星空さんぽ	毎週土日休日に1回	106
スペシャル プラネタリウム	<ul style="list-style-type: none"><li>・星兄の爆笑プラネタリウムショー</li><li>・鳥プラネタリウム(仮)</li><li>・プラネタリウム100周年イベント(仮)</li><li>・ヘッケルとプラネタリウムの100年 ～放散虫プラネタリウム～(仮)</li><li>・KAGAYAトークショー ～世界に星と水を求めて～</li><li>・重力波望遠鏡KAGRA ～重力波で宇宙の声を聴く～(仮)</li></ul> など	約19
キッズ プラネタリウム	たなばた	2

※富山市民文化事業団主催のプラネライブを1回予定している。

## 8 恐竜化石事業

現地の化石露頭面を観察する「夏休み恐竜探検隊」を8月に実施。これに合わせて化石露頭面周辺の除草をする。

重要な化石保護のため、適宜樹脂によるコーティングを行う。

## 9 情報・広報事業

富山市広報や各種メディアに、企画展やプラネタリウム、イベントなどの情報を提供する。また、館ホームページや SNS を活用して積極的な広報を行う。特に学芸員の活動をフェイスブックや Twitter を活用してタイムリーに広報する。

## 10 他機関への協力等

館の活動趣旨及び業務との関連性を検討した上で可否を判断。

### (1) 研修等の受入

研修名	人数
博物館実習（大学生）	10
富山大学博物館展示論実習	約 30
社会に学ぶ「14 歳の挑戦」	5
インターンシップ（大学生、短大生）	1-2

- (2) 講師派遣（立山黒部ジオパーク協会ジオガイドスキルアップ講座、富山市民大学、富山大学博物館展示論など）
- (3) 会議・研究会（自然史標本データ整備事業、県科学展準備委員会など）
- (4) 委員等委嘱（立山博物館運営委員、全国科学博物館協議会理事など）

## 11 ボランティア事業

- (1) 登録人数 91 人
- (2) 総活動時間 前年度と同程度以上を予定（約 800 時間超）
- (3) 来年度登録者の募集 令和 6 年 1 月～2 月（新規および継続）

## 12 ジュニア科学賞・とやま事業（田中耕一氏ノーベル賞受賞記念事業）

第 21 回「ジュニア科学賞・とやま」の選考及び表彰を実施する。

## 13 友の会

事業企画や講師派遣等をとおして、友の会活動に協力する。令和 5 年（1～12 月）の友の会イベントは 10 回の予定（案内チラシ参照）。



14 富山市科学博物館展示更新計画策定事業（第1回展示更新計画検討委員会資料より抜粋）

(1) 展示更新計画策定にあたっての背景

- ①富山市科学博物館（以下「科学博物館」という。）は、現在地に開館してから43年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、展示を更新するにあたっては、長寿命化と併せて今後を見据えた総合的な検討が求められている。
- ②常設展示は、前回の更新から15年が経過し、内容に社会情勢の変化や科学の進歩を伴っていないものがあるとともに、装置類の経年劣化が進んでいることから、更新が必要となっている。
- ③天文台の廃止に伴う天体観察機能の再構築<sup>※1</sup>については、科学博物館の展示内容全般の方向性や令和5年3月にリニューアルしたプラネタリウムとの連携、更には将来市民の負担などを考慮し、その方針を定める必要がある。

※1 天体観察機能については、平成30年度に策定した「富山市天体観察室設置・プラネタリウム更新基本計画」において、その方向性を示したが、設置候補地の立地環境や経済状況等の変化により、現状では方針は未定となっている。

(2) 展示更新計画の方向性

- ①科学博物館の理念と使命に基づいたものとする。
- ②来館ごとに変化を感じられるよう、また更新費用の平準化の観点から、複数年で順次部分的に更新を行う計画とする。
- ③天体観察機能再構築のあり方を含めた計画とする。検討にあたっては新しいプラネタリウムとの連携等を考慮する。
- ④限られた財源の中、必要最小限の投資で最大の効果が得られるものにする。
- ⑤計画期間は令和6年度を初年度とする15年間の運用におけるものとする。

(3) 検討委員会

上記の方向性に基づき、令和6年度以降、展示更新を計画的に進めることができるように計画を検討するため、検討委員会を設置した（令和5年4月）。

委員一覧

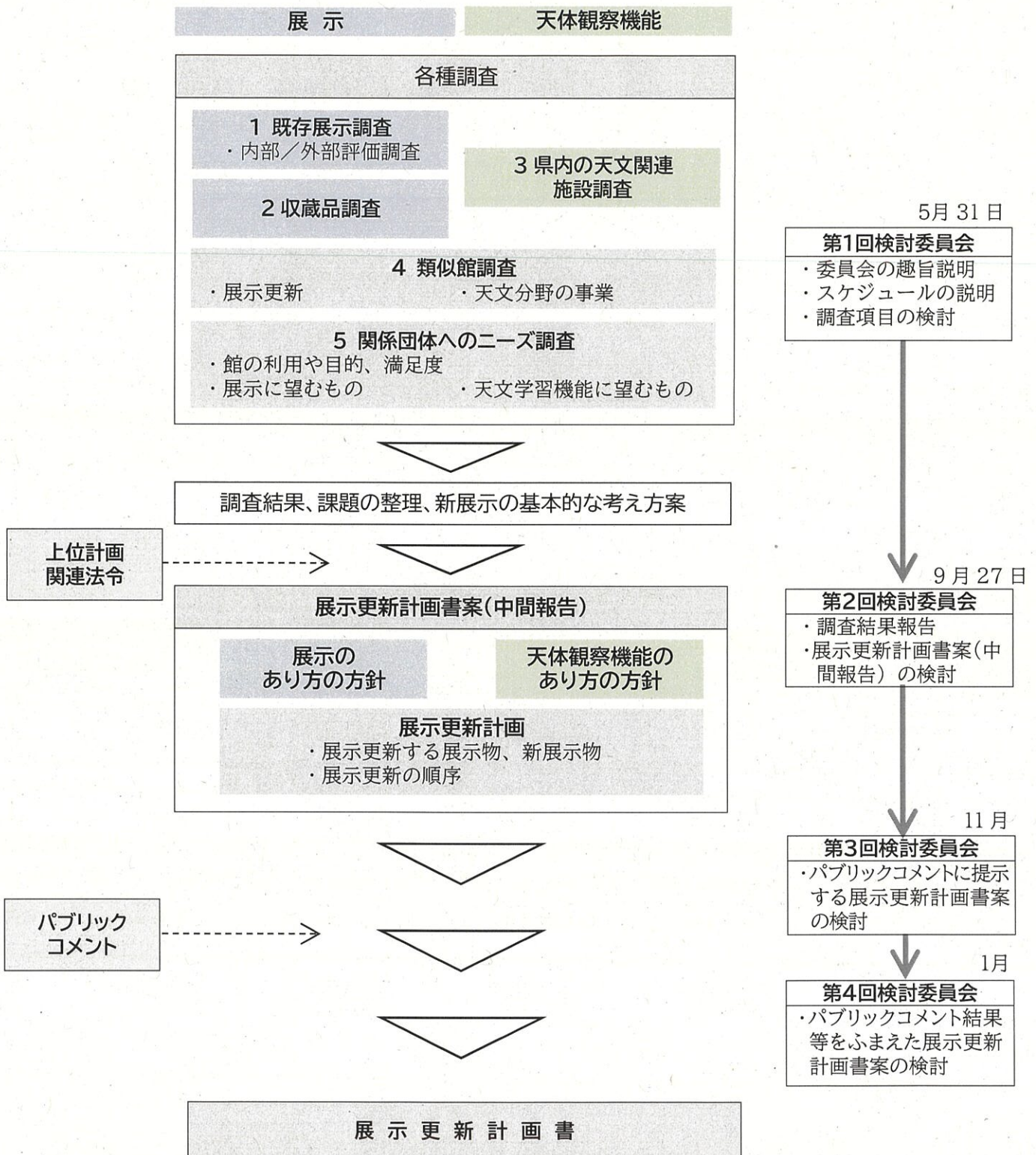
氏名	役職	区分	備考
青木 真	富山大学学術研究部理学系 教授	学識経験者（博物館）	委員長
布村 昇	金沢大学環日本海域環境研究センター連携 研究員	学識経験者（博物館）	副委員長
齋藤吉彦	元大阪市立科学館 館長	学識経験者（博物館）	
佐野晋一	富山大学学術研究部都市デザイン学系 教授	学識経験者（博物館）	
田中 斉	富山県市長会 事務局長	学識経験者（行政）	
牧野 弥一	富山市科学博物館友の会 会長	利用者代表者	



(4) 計画策定までの流れ

<計画策定>

<検討委員会>





#### (5) 新展示の基本的な考え方（案）

博物館は生涯学習の拠点であり、生涯学習の基盤を作るのが学校教育である。そのため博物館と学校は、それぞれの教育機能を活かして連携・協力し、よりよい形で次の時代を担う子どもたちの教育を推し進めていくこと（博学連携）が求められている。

当館は社会教育施設、すなわち誰もが学べる「もう一つの学校」として、新展示には、現在の学習指導要領の重点である「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れるものとする。そして、前述した時代の潮流と展示の現状等を踏まえ、富山の自然と自然現象を核とした展示の中で、見て、触れて、感じることをとおして、次の4つのねらいを達成し、展示のテーマ「つながりさがしの旅」を強化する。

##### ■自分ごととしてとらえる

自然環境の変化に伴う問題が、自分と関係することに気づく。

##### ■考える力を身につける

疑問に思う力、問題を発見する力、探求する力、論理的に考える力を身につけられる。

##### ■自分で考える

問題に対して、自分がどうすべきかを主体的に考えられる。

##### ■人と対話して考える

他者と対話し、様々な意見を受け入れ、自分の考えを広げ、深められる。